

● 第1回 なんでも話せる中神 (地域活動部会)

開催日：1月20日(土) 午後1時30分～ 会場：朝日会館

「なんでも話せる中神」は地域の皆様が参加して、“楽しみながら” “お茶を飲みながら” 交流を深めていく、そのような場を提供しながら、且つ、知識を豊かにして視野を広げるような内容を組み込んでいきたいとの思いからスタートしました。上記の思いから、今回は原則行さん・米倉 司さん・福田 勝利さんから、経験や知識を基にお話を伺うことができましたので、その一部をご紹介します。また話の合間には出席者一同で歌をうたい、原 ミエ子さんは「この街で」(作詞・作曲 新井 満)をソロで、その場を盛り上げていただきました。



▲原 則行 さん

原 則行さんは佐世保市生まれで、幼い時は太平洋戦争の戦時下。

当時の体験談や社会状況について話をされましたので、その一部を紹介します。

防空壕への避難を度々経験され、その中の一つの出来事。

ある時の防空壕への避難では、鶏を両脇に抱えて避難した近所のお母さん。子供が一人いないことに気づき大慌てで探しにいった。(今の平和な日本では笑い話になってしまっていますが、当時としては、それは緊迫した状況下、命も大事、鶏の卵も大事な食糧。不安と緊張で無我夢中だったと推察できます)

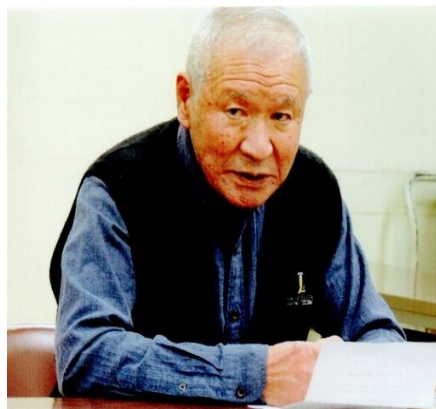
防空壕の中は広く、意外にも清潔で壁の岩肌を水が滴っていたそうです。

コロナ禍前の夏まつりでは、中神駅南口から江戸街道に交わる中神南交差点までの区間を阿波踊りの連がお囃子にのって踊っている光景がみられました。駅前親交自治会主催で開催されてました。(阿波踊りは現在休止)

今回、米倉 司さんが、この阿波踊りの起源と蜂須賀氏の代々の家系について話をされましたのでその一部を紹介します。

<阿波踊りの起源について>

蜂須賀正勝(小六)が羽柴秀吉に仕えて功績をあげ、阿波の国に土地をあたえられた。その息子の家政が徳島城主となり徳島城が築城された時に、城下の人々がお祝いをして踊ったのが始まりという説が有力です。最後に米倉さんの紹介で、駅前親交自治会 青年部部長としてご活躍の和久井 牧子さんのご挨拶がありました。



▲米倉 司 さん

タイトル「中神の100年を語り継ぐ」のDVDを再生して、昭和初期の時代から現代にいたる中神地域の街並みの風景を皆さんで視聴し、福田 勝利さんが、ポイントの解説をされました。

このDVDは川嶋 新作さん(故人)が、若い時から中神地域の街並みの要所・要所の風景を多数スケッチしており、このスケッチ画と同じ地点の現在の写真と対比させ、解説等を加えて編集収録したものです。

(写真/広報部会 主催 / 地域活動部会)



▲福田 勝利さん



▲原 ミエ子さんの歌と演奏で、この会を盛り上げました。